

Forever Lucky Beach

菊地耕悦様（吉浜農地復興委員会事務局、大船渡市議会議員）

（聞き手：農村基盤研究領域上席研究員・福与徳文）

アメリカの新聞 USA TODAY は、吉浜のことを「‘Lucky Beach’ lives up to its name（吉浜はその名に恥じずラッキービーチ）」として紹介しています。しかし、吉浜は単に“Lucky”だったわけではありません。明治三陸津波（明治 29 年）のときの新沼武右衛門村長、昭和三陸津波（昭和 8 年）のときの柏崎丑太郎村長の先導によって、地域が一体となって低地部にあった集落を道路とともに山麓に移転させ、低地部を農地に転換し、その後、低地部にはけっしてもどらなかった。こういった諸先輩の努力があって、いまの吉浜の土地利用ができあがっていたため、ほかの地域と比べて被害が小さかったものと考えます。

ところで吉浜でも、実は 1 名亡くなっています。また住宅も 4 戸全壊しています。漁業関連施設や漁船も甚大な被害を受けました。また津波の被害を受ける前、低地部の農地では遊休地が目立っていたことも事実です。「吉浜」が「悪し浜」にならないように、漁業、農業、観光が一体となった復興および地域活性化をはかっていかなければなりません。

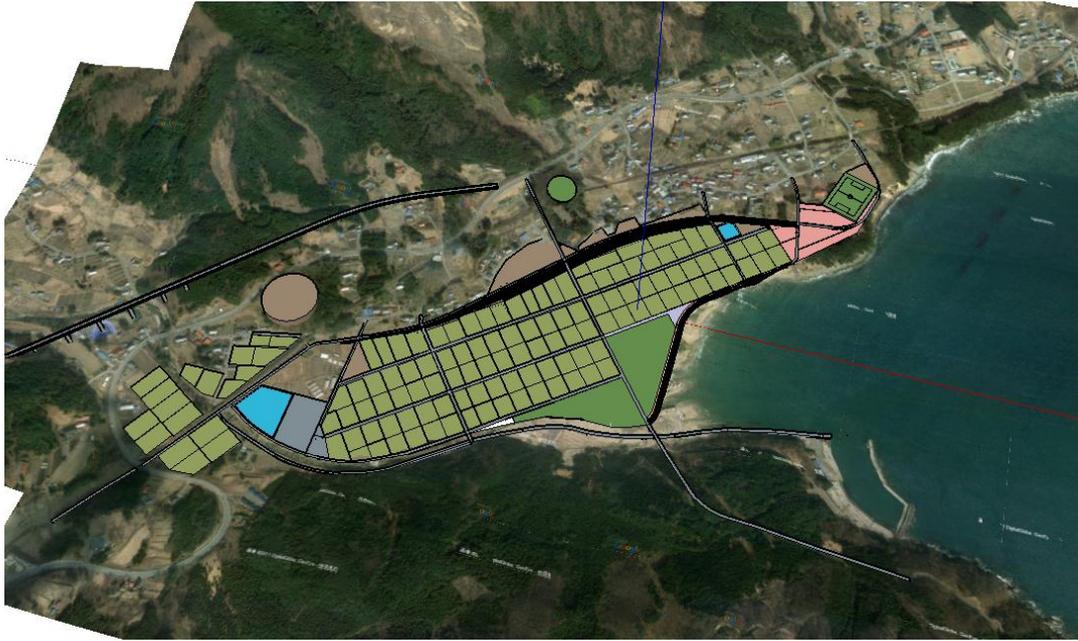
いま吉浜農地復興委員会では、「数十年の間には、必ず大津波がくると想定。来襲しても犠牲者はもちろん、ガレキもほとんど出ない故郷づくりを目指す」という理念のもと、以下のような復興計画案を考えています。

①防潮堤（第 1 堤防）を高くせず、巨大津波では越流を覚悟するものの、第 2 堤防を山麓にある住宅と低地部の農地の間に設置し、住宅への浸水を防ぐ。また第 2 堤防は階段状に整備することによって、低地部からの避難を容易にする。②第 2 堤防上には集落道を整備し、その集落道は（いざというときに備え）大型トラックが国道 45 号線から容易にアクセスでき、集落を通過できる幅員とする。また平常時には観光バスが海岸まで行けるようにし、観光、6 次産業化による地域活性化をはかっていく。③低地部の農地はいままでより大きな区画に整備し、換地処分で飛び地を解消して営農を容易にし、団地間に段差を設けることによって津波の勢いを弱めるとともに、農地としてきちんと利用することにより、危険地帯（低地部）の住宅建設を抑止する。

岩手県立広田水産高校（現：県立高田高等学校広田校舎）には「海を恐れず、海を侮らず、海に逆らわず」という校訓があります。「海の恵みと海之力」とどう付き合っていくかが、吉浜の永遠のテーマです。

100 年先も安心して住める地域をつくっていきたくないと強く願っています。

”Forever Lucky Beach” Yoshihama, Iwate



▲吉浜農地復興計画案（作成：吉浜農地復興委員会事務局 2011年10月3日）



▲住民説明会における農工研・山本教授による景観シミュレーションの例示
(2011年8月4日、吉浜地区拠点センター)

【聞き手から一言】

農村工学研究所・復興支援プロジェクトチームは、（まことにささやかなものですが）吉浜の復興計画づくりのお手伝いをさせていただいております。詳しくは、農村工学研究所ホームページの東日本大震災特設サイト <http://nkk.naro.affrc.go.jp/2011fukkoushien/jissen/yoshihama.pdf> をご覧になってください。私も「その名に恥じず」地域復興のためにお役にたてればと思っています。（福与）